

interview

インタビュー

お元気ですか、先輩

SMB C日興証券グループ健康保険組合には、全国約1400の健保組合の中でも61組合しか実施していない、75歳の誕生日前日まで加入できる制度があります。そこで本誌では、「お元気ですか、先輩」と題し、当健保組合加入の70歳代の先輩に、現役時代の思い出や健康に関する考え方を伺いながら、後輩世代へのアドバイスをいただくコーナーをスタートしました。記念すべき第1回は、昭和36年に入社された日興証券OBで、現在はOBの親睦団体「興栄会」の理事長を務められている磯野久司さんにお話を伺いました。



Profile

いその ひさし
磯野 久司さん

- 昭和17年生まれ(74歳)
- 和歌山県出身
- 家族…妻・子ども2人・孫3人
- 趣味…家庭菜園・食へ歩き
- 好きな言葉…「宿命に生まれ、運命に挑み、使命に燃える」

—本日はお忙しいところありがとうございます。せっかくの機会ですので、「興栄会」について簡単に教えてください。

興栄会は昭和37年、当時の日興証券を退職した元役社員、親睦団体として発足しました。SMB C日興証券グループおよび元日興証券グループに通算15年以上勤務して退職し、55歳に達した方が入会できます。会員総数は1750余名おり、有志による部活動や同好会があります。

—健保日より前号では興栄会のご協力のもと、写真部の方の作品を表紙に掲載させていただきました。他にはどんな部活動がありますか？

写真部のほか、ゴルフ部、麻雀部、囲碁部、旅行部、観劇部、俳句部、園芸部、絵画部の9つの部と、野球、登山の同好会があります。みな楽しみながら、結構真面目にやっています。

—磯野理事長ご自身も、大変お元気にお見受けいたします。

—それは楽しみです。ところで、当健保組合にもご数年、20歳代の若い加入者が急増しています。後輩へのメッセージ、エールをお願いいたします。

45年間の証券マン生活を振り返ると、健康管理が非常に重要であると感じます。お客様のところへお伺いするため、市場や経済の分析に加え、商品のことも勉強しなくて



この歳になるまで病気がしい病気がなかったのですが、実は1カ月前に腹部大動脈の手術をしました。4〜5年前に人間ドックで腹部大動脈の異常が見つかり、経過観察としていたのですが、今回人間ドックを受診した際、大きくなっていることがわかり、血管外科の先生をご紹介いただき、手術に至ったわけです。生まれて初めて1週間の入院をしました。

—それは大変でしたね。奥様もご心配されたでしょう？

女房にはいろいろ面倒をかけました。今回のことは自覚症状も特になかったし、健診を受けていなければ発見できず遅れになっていたかもしれません。それを考えると健診はつくづく大事だと思いました。健保組合には本当に感謝しなければと思っています。

—ありがとうございます。ところで、以前は喫煙されていたと伺いました。

若い頃、お酒はそれほど飲まなかったのですが、ヘビースモーカーでして……。それが14〜15年前に人間ドックを受診した

はいけない。そういう意味で、証券会社勤務というのは「知的格闘技」だと思っています。時代とともにシステムやインターネット環境もますます進化し、証券もどんどん高度化してきていますから、若いみなさんも勉強するのが本当に大変だと思えます。そうした環境でがんばるためには、何より健康が基本になります。ですから、若いうちからの健康管理がとても重要だと思うのです。

もう一つ、ストレスとはうまく付き合うことです。仕事の勉強や上司・同僚との付き合いの中で、どうしてもストレスは生まれると思います。私も支店時代はもちろん、支店から本社に移ったときは本当に大変でした。でも私は、仕事のスキルアップにある程度のストレスも必要だと考えています。ストレスとうまく付き合うには、ためてしまう前に気分転換すること。私は食道楽なので、私のストレス解消法は、おいしいものを食べることです(笑)。

—好きなお言葉は「宿命に生まれ、運命に挑み、使命に燃える」とのことですね。

故小淵恵三元総理大臣の残した言葉です。恐らく小淵元総理が、故安岡正篤氏(陽明学者、思想家)を師と仰がれ、学ばれた思想だと思います。「命」は天から与えられた素質能力であり、宿命である。運は「めぐる」、「はこぶ」という意味で、使は「つかう」、すなわち「命」は天命であるとともに、自分から造るものであります。自分が与えられた素質や能力を知り、自らの修練で道を切り開き、自分の役割を果たすと

とき、肺にニコチンの「つらら」ができていて、と医師にいわれたのです。1日3箱くらい吸っていましたが、買い置きのタバコもライターもゴミ箱に捨て、ある日を境にすっぱりやめました。おかげで仕事が忙しくても、この歳になるまで大病らしい大病もせず、腹部大動脈の手術を受けましたが、今は夫婦ともども元気にやっています。

—ご自身の健康法のようなものはありますか？

ゴルフを人並みにするくらいで、運動らしい運動をしていくわけでもないのですが、家庭菜園が趣味です……。8年くらい前からトマトや茄子やらを育て、人に配ったりもしています。いい具合に体を動かし、人とのコミュニケーションの手段にもなっており、それが心身の健康法といえるかもしれません。

—よいご趣味ですね。これからはどんな野菜が収穫できるのですか？

冬は大根、キャベツ、白菜などがとれるので、9月頃に種を蒔く予定です。

—奥深い言葉です。現在のお立場である興栄会理事長職にも通じるものがありますか？

そうですね。使命というほどではありませんが、自分ができることをするということでしょうか。日興証券には本当にお世話になりましたので、その恩返しのためです。

—最後に、当健保組合では今後、健康寿命を延ばすことをテーマに、75歳の誕生日前日まで加入できる制度を活かし、「元気で長生き」を実現するための様々な活動を展開しております。ぜひ、アドバイスをお願いします。

健康で長生きするためには、本人の努力に加え、環境や家族の協力、専門家の助けが何より必要です。私も50年近く連れ添った女房には、健康管理のことをいつもうるさくいわれています(笑)。一方、今日では、医療技術が高度化し、延命処置のあり方についても議論があるようです。家族の思いもあるでしょうが、本人の望む医療のあり方を考えるべきだと思います。私は、子どもたちに迷惑をかけることを望んではいません。ほけないために何をやるかが今の行動基準です(笑)。これからも元気に、家族や興栄会のみなさんと人生をエンジョイしたいと思っています。

—本日は大変貴重なお話をいただき、どうもありがとうございます。

宿命に生まれ、運命に挑み、使命に燃える

—与えられた素質や能力を知り、修練で道を切り開き、自分の役割を果たすというようにすることでしようか。初めてこの言葉を目にしたとき、心が揺さぶられました。